

実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養(流動食)

評価判定基準	ア 評価項目について手順どおりに実施できている。
	イ 評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。
	ウ 評価項目を抜かした。(手順どおりに実施できなかった。)

研修受講者	受講番号	
	氏名	
本票ページ数		/

回数 ※( )内に演習の実施回数を記入すること。		( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目
月日 ※演習を実施した月日を記入すること。		/	/	/	/	/
実地研修協力者番号 ※受講決定後提出書類一覧表の番号と同一の数字を記入						
時間 ※研修開始時間を記入すること。						
時間 ※研修終了時間を記入すること。						
実施手順	評価項目	評価結果				
STEP3 : 準備	1 医師の指示等の確認を行う					
	2 手洗いを行う					
	3 必要な物品を準備する					
	4 指示された栄養剤(流動食)の種類・量・時間を確認する					
	5 経管栄養の注入準備を行う					
	6 準備した栄養剤(流動食)を利用者(実地研修協力者)のもとに運ぶ					
STEP4 : 実施	7 利用者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する					
	8 注入する栄養剤(流動食)が利用者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する					
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する					
	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する					
	11 注入中の表情や状態を定期的に観察する					
	12 注入中の利用者の体位を観察する					
	13 注入物の滴下の状態を観察する					
	14 挿入部からの栄養剤(流動食)のもれを確認する。					
	15 注入中に利用者の状態を観察する					
	16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する					
	17 クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ					
STEP5 : 報告	18 注入後、利用者の状態を観察し、報告する					
	19 体位変換が必要な利用者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する					
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)					
STEP6 : 片付け	21 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする					
STEP7 : 記録	22 実施記録を記載する					
アの個数 計						
指導看護師のサインまたは印鑑						

自由記載欄

( )回目	
( )回目	
( )回目	
( )回目	
( )回目	